

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2017年3月16日

[テーマ] 大学生の就職活動—どこで働くか自ら熟考を—

就職活動中の皆さん、お疲れ様です。2018年卒の大学生採用選考はいよいよ3月1日から広報活動が解禁となりました。皆さんは、普段は手にしない新聞を片手に、企業の説明会をまわる、忙しい毎日を送っておられると思います。

今「新聞を片手に」と書きましたが、もしかしたら「スマホ（スマートフォン）を片手に」なのかもしれません。私が就職活動をしていた1989年は、スマホはおろか、インターネットも一般には利用されておらず、情報源と言えば新聞でした。企業を回る際に紙面を食い入るように読んだおかげで、新聞のチェックは朝の習慣となりました。

その新聞では、今年は売り手優位の度合いが更に高まり、バブル期就活戦線の再来となる、などと報道されています。後から振り返ると、89年はバブル期のピークでした。その時ほど売り手優位になっているかは分かりませんが、「団塊の世代」のリタイアと景気回復が重なり、企業の人手不足感や採用意欲が高まっているのは事実だと思います。

4年生になってもいないこの時期から活動を始めなくてはならないなんて、と嘆いている方もいるかもしれません。私の時は、4年生の夏、8月20日が解禁日と就職協定で定められていました。でも当時もOB・OG訪問というかたちで春ごろから選考が始まっており、8月20日は最終意思の確認だけという企業が少なくありませんでした。かなり早い時期に始まり、短期間で決まってしまうという点は、今も昔も変わりはありません。

先日、一人の学生さんから「自分は県内の企業を中心に探しているのですが、親が東京の企業への就職を勧めてくるので、どうしようかと悩んでいます」と相談されることがありました。私が学生の時は、親の勧めは全く聞かず、親が言ってきたことを真っ先に選択肢から外していました。皆さんは素直で、とても優しいので、親の言うことを全く無視することができないのでしょうかね。

実は私は皆さんの親御さんと同じ世代です。このため、多少ためらわれたのですが、その学生さんに対して親には従わなくても良いというアドバイスをしました。親が過ごしてきた時代とあなたが過ごしていく時代は大きく異なっている。親が良いと思ってきた選択が皆さんにとって良い選択である保証はない。自分の対応は自分でしっかりと考えるべきだと。

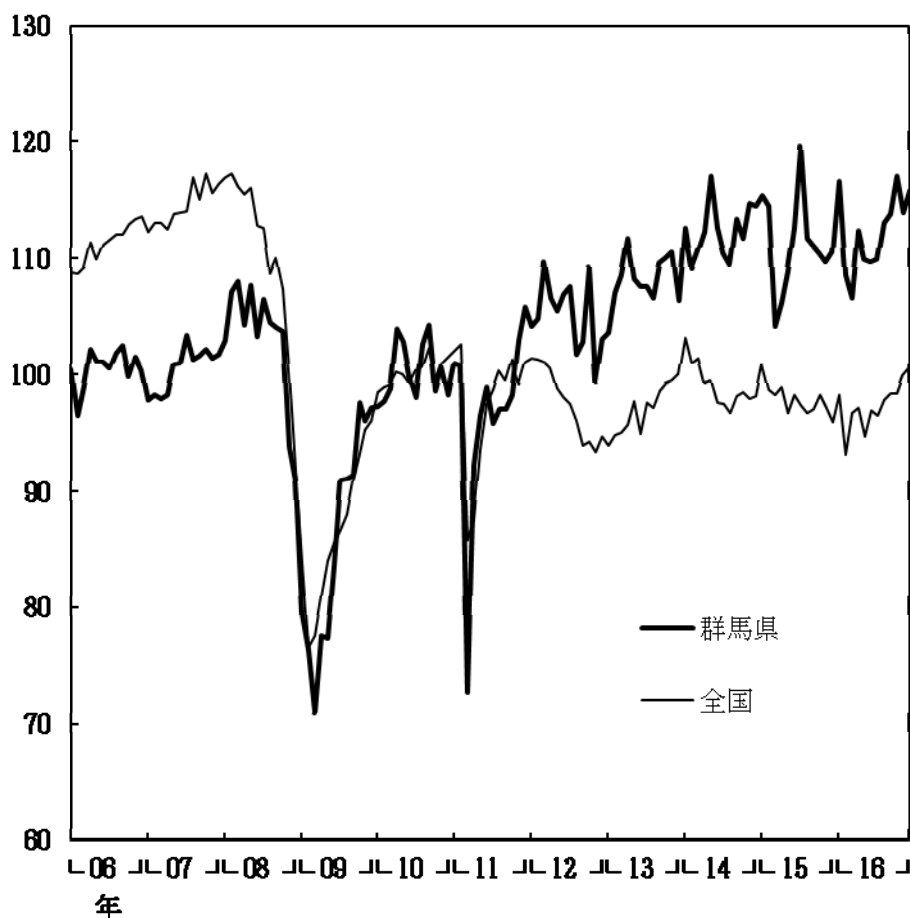
我々世代が学生の頃は、若年人口が急激に増加する中で、地方で勤め先を探すことは容易ではなく、東京の方が良いところに就職しやすい面がありました。でも、その時から状況は大きく変わっています。県内の経済活動は製造業を中心に全国に比べてかなり活発で、

世界で活躍している企業の数も一段と増えています。他方、人口減少社会となり、若者の数は全国と同様、どんどん減ってきています。過去の延長で県外就職を中心に考える必要は無くなっているのです。

もちろん、親の言うことをただ無視することは良いことではありません。私が社会に出る前、親に反抗ばかりしてきたことを今では大変反省しています。すべきことは、親にちゃんと説明し、納得してもらうこと。皆さんのことを真に思っている親を納得させることができないということは、どこかおかしいことがあるはずですが、親も納得させられなければ、社会に出て他人を納得させることはできません。

このコラムを目にした皆さんが就職活動をうまく乗り切り、残り少ない学生生活を有意義に過ごすことができると良いなと思っています。なお、私による当コラムの連載は今回が最後となります。今までお読みいただき、ありがとうございました。

群馬県と全国の鉱工業生産指数（季節調整済、2010年=100）



日本銀行前橋支店長
神山 一成